

□ 専門医療連携室について

■ ご紹介いただいた後の当センターの対応について

- ご紹介いただいた患者さんの状況のお返事を徹底いたします。
- ご紹介いただいた患者さんにつきましては、専門的診療を行った後、ご紹介元の医療機関のお返しすることを原則としています。また、病状が安定した患者さんを積極的に各医療機関にご紹介いたします。

■ 受付時間と連絡先

**受付時間** 平日 午前9時～午後8時

**連絡先** TEL：06-7637-5050

FAX：06-6833-5126

所在地：〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5丁目7番1号  
国立循環器病研究センター 専門医療連携室

■ 緊急対応連絡先

緊急対応連絡先(循環器救急疾患を対象)

**平日時間内連絡先** TEL：06-6833-5012(代表)  
平日時間内は、必ず最初に電話交換手に救急受診依頼であることをお伝えください。

**時間外・夜間連絡先** TEL：06-6833-5015・5016(管理当直)  
管理担当者が対応し、当番医師等へおつなぎします。

□ 連携医登録をおすすめします

センターとの連携をより一層推進するため、連携医登録をおすすめします。  
詳しくは専門医療連携室へお問い合わせください。

■ センターに入院されたかかりつけ患者さんへのご面会の手続きをいたします

- (1) 連携医証および写真入名札の貸与(名札の受け渡しは専門医療連携室で行っています)。
- (2) 当センター来院時の診察衣貸与、無料駐車券のご提供(ご来院の都度、専門医療連携室までお越しください)。

■ 登録されますと先生方の利便性が増します

- (1) 当センターに関する情報の提供(診療案内、外来担当医表、広報誌等を郵送させていただきます)。
- (2) 当センター図書館に所蔵する図書の見覧(利用申請が必要となります)。
- (3) 当センター主催の講演会・研修会等への参加(案内を郵送させていただきます)。
- (4) 当センターの連携医として、医療機関名をホームページ等で広告・紹介させていただきます。
- (5) 当センターでの諸検査(画像診断)のオープン予約を準備中です。

□ 診療実績

(2010年1月～12月)

領域	項目名	件数
<b>■ 心血管領域</b>		
検査	ホルター型心電図検査	4734
	運動負荷試験(トレッドミル・エルゴメーター呼吸ガス分析)	2411
心エコー検査		23865
	カテーテル検査・治療 心血管カテーテル検査	3054
	冠動脈造影(CAG)	1764
	経皮的冠動脈形成術(PTCA)	546
	カテーテルアブレーション(経皮的心筋焼灼術)による不整脈治療	356
	閉塞性動脈硬化症(下肢)カテーテル治療	49
	ペースメーカー・デバイス治療ペースメーカー移植術(交換を含む)	251
手術	冠動脈バイパス手術	107
	弁膜症手術	177
	大動脈瘤切除術	258
	大動脈ステントグラフト内挿術	106
	補助人工心臓(LVAS)装着手術	10
	心臓移植	6

■ 脳血管領域		
検査	頸部血管超音波検査	4596
治療	t-PA実施数	43
	脳卒中地域連携パス使用数	290
	脳血管内手術	125
	頸部動脈血栓内膜剥離術	43
	脳動脈瘤根治術(破裂・未破裂)	123

■ 高血圧・腎臓領域		
	血液透析患者数	159
	血液透析件数	1602

領域	項目名	件数
<b>■ 動脈硬化・糖尿病領域</b>		
	糖尿病に対するインスリン療法	353
	糖尿病による合併症に対する継続的な管理及び指導	1346

■ 産科・婦人科領域		
	産科領域の一次診療	605
	ハイリスク妊産婦共同管理	225

■ 小児科領域		
	小児心臓カテーテル検査・カテーテル治療	651
	カテーテルによる心房隔欠損閉鎖術	109

■ 麻酔領域		
	全身麻酔	2216

■ 画像診断		
	CT撮影	20944
	冠動脈CT撮影	1154
	ポジトロン断層撮影(PET)	333
	MRI撮影	9568

■ 病理診断		
	組織診断	1389
	細胞診	587

■ リハビリ関連		
	心大血管疾患リハビリテーション	6204
	(心筋梗塞・狭心症・心臓術後・心不全・血管疾患)	
	脳血管疾患等リハビリテーション	30432

交通のご案内



国立循環器病研究センター 電話 06-7637-5050  
 専門医療連携室 FAX 06-6833-5126  
 〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5丁目7番1号 ホームページアドレス http://www.ncvc.go.jp/



専門医療連携のご案内

(2011年10月)

## □ 専門医療連携室について

### ● 連携室は各医療施設と病院をつなぐ窓口です

専門医療連携室は、循環器病をもつ患者さんの健康回復・健康増進のため、各医療施設とセンターが一体となって良質な医療の提供ができるよう、双方向コミュニケーション推進のためのお手伝いをします。

- 紹介患者さんの診療予約受付
- 診療結果のご報告
- 退院後の治療方針のご相談受付
- ホームページ、広報誌、公開講座等による最新医療情報のご提供
- セカンドオピニオンの受付

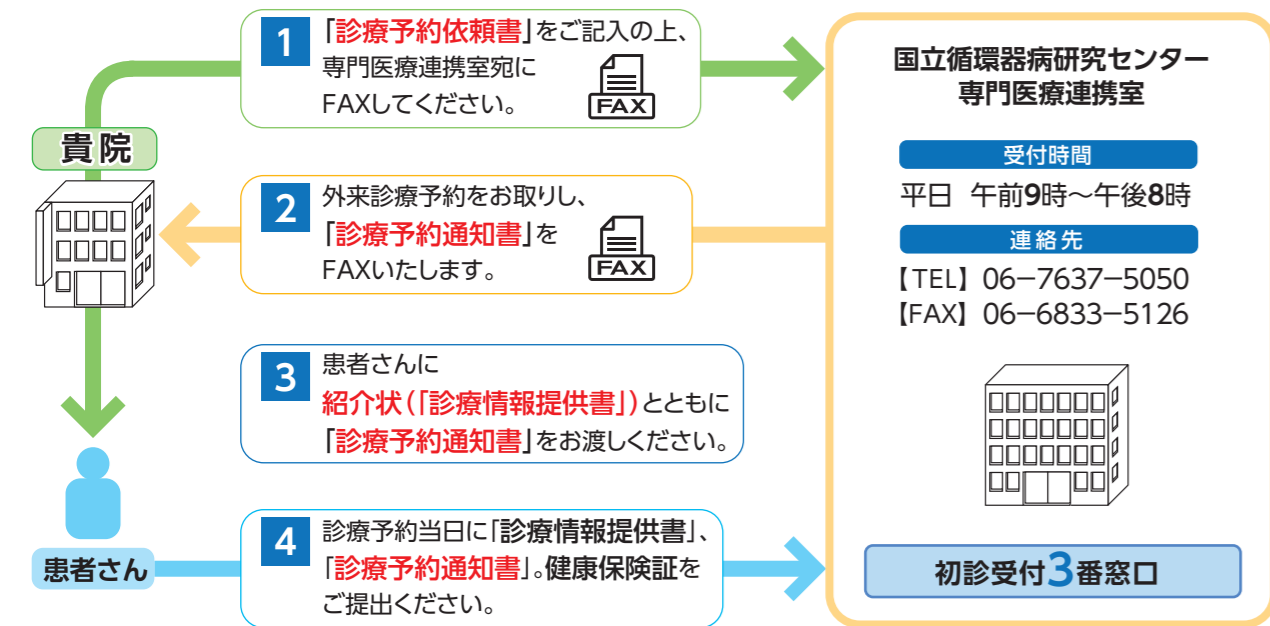
## □ 患者さんをご紹介いただく場合の手順

連携室では、ご紹介いただく患者さんの診療予約をお取りしています。

事前にご予約いただければ、診察当日の待ち時間が短縮されます。

患者さんが、ご予約なく直接窓口まで紹介状をお持ちいただいた場合、待ち時間が長くなりますことをご了承ください。

緊急受診が必要な場合またはご相談が必要な場合は、専門医療連携室に電話でお問い合わせください。



- このご案内に添付しております「診療予約依頼書」をご利用ください。  
なお、不足する場合は、お手数ですが、複写していただくか、当センターのホームページ (<http://www.ncvc.go.jp>) から印刷できますのでご利用ください。
- 当センターの初診診療は「初診外来」にて行います。ただし、脳血管外科、小児循環器科、心臓血管外科、周産期・婦人科の初診診療につきましては「専門外来」で行います。
- 受付時間外に「診療予約依頼書」を受理した場合は、翌日(休診の日は除く)の受付開始(平日午前9時)以降に予約日時等返信させていただきます。

## □ 診療科のご案内

### 心臓血管内科部門

／部門長／ 安田 聡

#### 心血管病に対する救急治療から慢性期治療・予防まで 質の高い高度医療を提供します

国立循環器病研究センター心臓血管内科部門は、冠動脈・血管科、不整脈科、心不全科を設け、約90名の医師が診療に従事しています。心血管集中治療室(CCU)は、循環器専門病院としては全国初となる交代制勤務により24時間365日対応でカテーテル治療・機械的循環補助を含めた質の高い高度医療・チーム治療の提供を行っています。不整脈に対するアブレーション治療、重症心不全に対するデバイス治療、外科治療と組み合わせたハイブリッド治療をはじめ、最先端の機器を導入し患者さんの負担の少ない画像診断にも積極的に取り組んでいます。また日本有数の心臓リハビリテーション施設に専門のスタッフを配置するとともに、成人先天性心疾患や心臓移植が必要な患者さんも受け入れる専門病棟を有しています。30年あまりの蓄積された経験を活かし心臓血管内科部門全体として、また他部門とも連携して、心血管病の予防と診断、救急治療から慢性期治療まで、専門医が一貫した診療を行っています。



最先端の医療を全力で行っています

### 心臓血管外科部門

／部門長／ 小林 順二郎

#### OPCAB、弁形成手術、メイズ手術を積極的に施行。 緊急大動脈手術にも24時間体制で対応。

虚血性心疾患では、人工心肺を使用しない冠動脈バイパス手術を導入し(95%)、1500例を超え、最高齢92歳です。またロボット外科支援システム、左室縮小手術、僧房弁形成手術も積極的に行っています。弁膜症に関しては、できる限りワーファリンを服用しない治療を行っています。不整脈の外科治療として、心房細動を洞調律に復帰させるメイズ手術を積極的に施行し、800例以上になります。血管外科では大血管から末梢血管までの血管疾患を幅広く扱っています。大血管手術が半数以上を占め、高齢化に伴い年々増加しています。特に、難易度の高い自己弁温存手術を含めた大動脈基部再建、弓部置換、胸腹部大動脈置換などの手術経験は豊富です。5名の大動脈外科専門医を揃えた施設は他になく、急性大動脈解離や大動脈瘤破裂などにも24時間体制で対応しています。より低侵襲なステントグラフト治療も週4例施行しており、手術と組み合わせたハイブリッド治療専門の部室を設置しています。



先進的な治療と新しい器械・治療法をいち早く導入

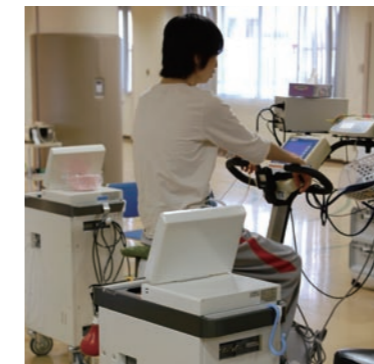
### 移植部

／部長／ 中谷 武嗣

移植部では、

- 1) 強心薬などの薬物治療
- 2) 自己心機能回復や心臓移植へのブリッジを目指す左心補助人工心臓(LVAS)治療
- 3) 心臓移植治療

を組み合わせ、従来の治療法で対応困難な重症心疾患患者に対し、心臓移植の適応を検討し、治療を行っています。強心薬から離脱困難な慢性心不全患者や、自己心機能回復が期待できる急性重症心不全患者などのご紹介、ご相談を受け付けています。



移植待期患者のリハビリテーション

## □ 診療科のご案内

### 脳血管部門

／部門長／ 飯原 弘二

#### 日本人の国民病である脳卒中に立ち向かう

脳血管部門は、脳血管内科、脳神経内科、脳神経外科、脳リハビリテーション科、脳卒中集中治療科の3部2科体制で構成され、約60名の医師が在籍しています。

私たちの目標は、国民死因の第3位、要介護性疾患の第1位、高齢者医療費の第1位で、今後も患者数が増加すると予想される「脳卒中」の撲滅、制圧であり、急性期脳卒中患者は24時間365日体制で対応しています。全国に先駆けて開設した、脳卒中ケアユニット(SCU) 入室患者数は年間約1300例、急性期脳卒中患者入院数は約900例、脳梗塞入院実績は全国のDPC病院中の第1位でした(平成22年度)。脳外科手術症例数は約800例を超え、脳神経外科ケアユニット(NCU)では、脳血管病変に対する直達手術、血管内治療の専門的治療を行っています。

脳血管・神経内科は、超急性期血栓溶解療法の開発・応用では国内唯一の実績があります。一度失われた脳機能の回復を目指した再生医療(細胞移植療法)などの先端医療にも取り組んでいます。脳神経外科は、直達手術、血管内治療、ガンマナイフなどの多角的手段を駆使した治療で、複雑な脳血管病変(巨大動脈瘤、脳動脈瘤、もやもや病、内頸動脈狭窄症)の治療で全国をリードしています。また最近、直達手術、血管内治療を一期的に行えるハイブリッド手術を導入して、より低侵襲、安全な脳血管病変の治療を行えるようになりました。急性期リハビリテーションや、回復期リハビリ病院、介護施設、診療所との連携など、新しい脳卒中医療体制の開拓にも力を注いでいます。「究極の治療は予防である」との観点から、無症候性脳梗塞や脳血管狭窄・閉塞、未破裂脳動脈瘤の治療、前触れ発作とされる一過性脳虚血発作、その他ハイリスク患者の診療や脳血管外科治療にも積極的に取り組んでいます。



より質の高い治療を行ってより良い予後につなげる

### 生活習慣病部門

／部門長／ 河野 雄平

#### 高血圧、腎臓病、糖尿病、脂質異常症、肥満症の 専門的診療による循環器病の予防

生活習慣病部門は、高血圧・腎臓科および糖尿病・代謝内科の2つの診療科と予防健診部よりなっています。高血圧・腎臓科は、高血圧および腎臓病の専門的な診断と治療を行い、透析療法も担当しています。患者さんの教育と指導については、医師、看護師、薬剤師、栄養士のチームによる高血圧および腎臓病の検査教育入院と教室を行なっています。スタッフの多くは、日本高血圧学会、日本腎臓学会、日本透析医学会などの専門医や指導医です。糖尿病・代謝内科は、糖尿病、脂質異常症、肥満症、メタボリック症候群などの診療を行っており、動脈硬化性疾患の予防と早期診断に努めています。また、糖尿病地域医療連携の中核施設であり、多職種チームで支援する糖尿病教育入院に力を入れています。高コレステロール血症に対するアフエーシス療法も行っています。予防健診部は健診と保健指導、禁煙外来を行い、生活習慣病や循環器病の早期発見と予防に努めています。生活習慣病部門は最近、外来での生活習慣病教室(高血圧、腎臓病、糖尿病、脂質異常症)を開始しました。



スタッフによる生活習慣病教育を開催

### 小児循環器・周産期部門

／部門長／ 白石 公

#### 生まれつきの心臓病を生涯にわたり診療できる 国内最大の小児循環器・周産期センター

小児循環器・周産期部門では、先天性心疾患をはじめとする様々な心血管疾患患者さんを、胎児期から成人期まで、さらには妊娠出産の管理まで、一貫して診療する体制を整えています。主な内容は、次のとおりです。

- 1) 小児循環器科: 先天性心疾患(新生児～成人)の診断とカテーテル治療、不整脈、肺高血圧、川崎病後遺症、心筋症、心移植を必要とする慢性心不全、遺伝性系統疾患の心血管病変など
- 2) 小児心臓外科: 先天性心疾患の外科治療(フォンタン、ジャチーン、ラスラリ、ノルウッド、ダブルスイッチ、ロス手術など)
- 3) 周産期・婦人科: 胎児心疾患、心疾患合併妊娠(先天性心疾患、不整脈、心筋症、肺高血圧、マルファン症候群など)、脳血管障害合併妊娠、産科救急、婦人科手術、ホルモン療法など



ICUでの新生児への術後ケア